

第6学年音楽科学習指導案

日時 平成15年9月30日(火) 5校時
児童 6年4組男子22名 女子17名 計39名
指導者 高橋 真貴子

1 題材名

きれいなひびきで

- 教材曲 ・山田耕作の歌曲(「この道」 作詞 北原白秋 「赤とんぼ」 作詞 三木露風)
・「ふるさと」 作詞 高野辰之 作曲 岡野 貞一
・「風を切って」 作詞 土肥武 作曲 橋本祥路
・「この広い空の下で」 作詞 高木あきこ 作曲 黒沢吉徳

2 題材について

(1) 題材観

この題材は主に学習指導要領のA表現(2)のイ「拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること」、(3)のア「呼吸及び発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと」、(3)のイ「音色の特徴を生かして、旋律楽器及び打楽器を演奏すること」、B鑑賞(1)のウ「楽器の音色及び人の声の特徴に気をつけて聴くこと。また、それらの声の重なりによる響きを味わって聴くこと。」に関わるものである。この題材では、歌声や楽器の音が重なり合う美しい響きを味わったり、きれいな響きを感じられる表現を目指し工夫したりすることをねらいとしている。ここで取り上げる「ひびき」は、「歌声や楽器自体の音の響き」と「歌声や楽器の音が重なり合って作り出す響き」の二つを意味する。これら二つの視点から迫ることで表現の深まりをつくりだし、音楽をみんなで作り上げる楽しさを味わわせることにふさわしい題材であると考えられる。

(2) 児童観

児童は前単元「曲のまとまりを感じて」で、その曲が持つ特徴を意識してとらえる学習を行ってきた。その中で、旋律の反復や変化、対照による楽曲の構成、それを踏まえた上での旋律やリズムのまとまりを感じ取り表現を工夫してきた。旋律の動き、ブレスの位置、強弱の変化、速度などに目を向けることで、その曲が持つ特徴を表現しようとする児童が増えてきている。しかし、歌唱に関しては、音をとることに精一杯で、互いの音色を聴きあったり、響きに気をつけて歌いあうことはまだ十分にできていない。したがって、情景や場面の様子を思い浮かべて歌うことから、さらに進めて、作者の気持ちや歌詞から感じ取られる心の動きを受け止めた、心をこめた歌い方へは、段階を追った指導が必要である。

比較的器楽に関しては男女を問わず進んで取り組む児童が多く、ハ長調の階名を自力で読むことができる子が増えてきた。リコーダーでは休み時間などに友だちを見つけて二重唱を楽しんでいる児童もいる。

(3) 指導観

美しい響きの合唱や合奏をすることが楽しく、気持ちの良いことをこの単元を通し、体感させたいと考える。そのためには、まずきれいな歌声や楽器のもつ音色を生かすことが大切であることに気づかせ、一人一人の表現能力を高めていく意欲を持たせたいと考える。

単元の導入では、「山田耕作の歌曲」を通して、大人の歌声を取り上げ、女声・男声それぞれの歌声の美しさを独唱や重唱・合唱で聴くことで、それぞれの響きに気づかせていく。歌唱では、「ふるさと」の三部合唱や「広い空の下で」の二部合唱などを通して、きれいな響きをつくるための発音の仕方や正しい音程を取ることからもう一步進んで、互いの響きを聴き合いながら全体が響きあう合唱を求めて表現の工夫を行うようにしていく。基礎的な表現能力を高めるために、リコーダーによる二重奏を取り入れて互いの響きを意識するようしたり、歌唱の中でもリコーダーを活用することで、音程がしっかり取れ、気持ちのよい和声の響きを感じ取らせたりしていきたい。また、器楽演奏「風を切って」では、それぞれの旋律がもつ特徴をおさえて表現に適した楽器を選んだり、それぞれの旋律が絡み合うことで生まれる合奏のよさにふれ、表現を高めるバランスについて工夫していく。また、階名唱・リズム打ちなどを取り入れることで、基礎的な表現能力の育成を図る。

単元全体を通して、「歌声の響き」と「楽器のもつ音色の響き」、「合唱の和声の響き」と「合奏の音の重なりあう響き」の共通点を導きながら、相乗的に楽曲を見つめ、演奏形態を工夫してみんなで音楽を作り出す喜びを味わわせていきたい。

3 題材の目標

- (1) 人の声の特徴を聴いて美しさを味わったり、いろいろな楽器の音色を生かしたりして、美しい響きで表現することができる。
- (2) 三部合唱の響きを味わって歌うことができる。

4 題材の評価規準

- (1) 人の声や楽器の音色に興味を持って、美しい響きで表現しようとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 人の声や楽器の音色の特徴を感じ取って、美しい響きを求めた表現を工夫することができる。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 重なり合う声の響きや楽器の音色に気をつけて、合唱したり合奏したりすることができる。
(表現の技能)
- (4) 響きの美しさや、演奏形態による表現の違いを感じ取って聴くことができる。
(鑑賞の能力)

5 指導計画 (10時間《教科》+2時間《総合的な学習・発展学習》)

- ・ 山：山田耕作の歌曲「この道」「赤とんぼ」
- ・ ふ：「ふるさと」
- ・ 風：「風を切って」
- ・ 広：「広い空の下で」

次	指導事項	時	主な学習活動	教材	評価規準
1	人の声の特徴を聴いて美しさを味わったり、声の響きに気をつけて歌ったりすることができるようにする。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌声の美しさや響きを味わって聴き、歌声の特徴をとらえる。 ・ いろいろな演奏形態 (独唱・斉唱・重唱・合唱・男性・女性・混声) による違いを聴き比べ、それぞれの特徴を感じ取る。 	山 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌声の響きの美しさや、いろいろな演奏形態による響きの違いを味わって聴くことができる。(鑑賞)
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容、旋律の動き、音の重なりを感じ取り、情景を思い浮かべて主旋律を歌う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 響きのある歌い方に興味を持ち、曲の気分を生かした歌い方をしようとしている。(関心・意欲・態度)
2	響きのある発声や楽器の音色を工夫して、合唱したり合奏したりすることができるようにする。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低声部の練習を全員で行い、曲の構成をつかむ。 ・ 三つのパートに分かれ、音程やリズムを確認し、柔らかな響きのある歌い方を練習する。 ・ 互いを聴きあいながら、三部合唱をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 他のパートを意識し、全体の響きに気をつけながら自分のパートを歌うことができる。(音楽的な感受と表現の工夫)
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の感じをつかみ、各パートの特徴や役割を考える。 ・ 情景を想像しながら、歌唱パート②を階名唱・歌詞唱で練習する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 情景を想像したり、各パートの特徴や役割に気をつけて聴くことができる。(鑑賞の能力)
		5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律パート①を歌唱パート②と比較しながら階名唱し、旋律の重なりを感じ取る。 ・ ①・②パートの旋律の特徴を生かす楽器を考え、特徴をとらえて演奏する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の重なりを感じ取って楽器を選んだり演奏の仕方を工夫したりすることができる。(音楽的な感受と表現の工夫)
3	声や楽器の音色の特徴を生かし、その重なり合う響きを味わいながら表現することができるよ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の山を感じ取り、曲にあった速度や強弱を考え工夫して合唱する。 ・ 独唱・斉唱・重唱・合唱の演奏形態を工夫し、重なり合う響きを楽しみながら演奏する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 速度や強弱を工夫し、それぞれのパートが重なり合う響きを感じ取りながら三部合唱したり、演奏形態を工夫して表情豊かに歌ったりすることができる。(表現の技術)

うにする。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴あるリズムや和音の変化に気づき、和音パート③・低音パート④のリズム読みやリズム打ちの練習をする。 ・③・④パートの特徴を生かす楽器を選択する。 ・①・②・③・④各パートの特徴を考え、パート練習を行う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの楽器の音色を生かした奏法の工夫をすることができる。(音楽的な感受と表現の工夫)
	8 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かしたバランスのよい合奏にするために、楽器の構成を変えるなどの演奏形態の工夫について考える。 ・音色・速度・強弱・音量などを工夫し表現を高める。 ・重なり合う響きを聴き合いながら、楽しんで演奏する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・バランスのよい合奏にするために、パートの役割に適した音色や奏法を工夫して合奏している。(音楽的な感受や表現の工夫)
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きや歌詞の表す情景を感じ取って、曲全体の雰囲気をつかむ。 ・主旋律・低声部を音程・リズムに気をつけ、旋律の動きを感じて歌う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・旋律や歌詞のないように関心を持ち、響きに気をつけながら歌おうとしている。(関心・意欲・態度)
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かし、表情豊かに合唱する歌い方を考える。 ・速度・強弱・音量を工夫し、表現を高める。 ・曲想を生かし、互いの響きを聴き合いながら、表情豊かに二重唱や二部合唱する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かしながら、互いの響きを感じ、表情豊かに二重唱や二部合唱することができる。(表現の技能)
	11 総合	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで経験していないパートを小グループで相談し、役割を分担する。 ・自分のパートの特徴をとらえ、練習する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・これまで経験していないパートの特徴をつかみ、意欲的に練習している。
12 総合	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループごとに、曲想について話し合い、まとまりのある合奏するための工夫を行う。 ・グループ発表会を開き、互いの工夫点やよさについて、認め合う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を工夫し、互いの響きを聴き合いながら楽しんで合奏している。 	

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 旋律の特徴をとらえて音色や奏法を工夫し、それぞれのパートが重なり合う響きを聴き合いながら、バランスのよい合奏をすることができる。

(2) 本時の評価規準及び判断基準

評価規準 (観点)	評価場面 (方法)	A	B	Cの児童への支援
バランスのよい合奏にするために、パートの役割に適した音色や奏法を工夫して合奏している。 (音楽的感受や表現の工夫)	・表現の工夫の話し合い及び全体練習 (感想カード・観察)	・バランスのよい合奏にするために、全体の構成を考えパートの役割に適した音色や奏法を工夫して合奏している。	・バランスのよい合奏にするために、パートの役割に適した音色や奏法を工夫して合奏している。	・部分的に特に気をつけたいところを確認し、各パートの特徴を生かして演奏をさせるようにする。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	・指導上の留意点及び☆評価と★支援
導 入 7 分	<p>1 既習曲を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歌よありがとう」 ・「エーデルワイス」 ・「ふるさと」 <p>2 学習課題を把握する。</p> <p>○前時の「風を切って」の演奏を聴き、気が付くことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パートのバランスがよくない ・ 強弱がなく、曲の雰囲気に合わせていない ・ 楽器の種類ができそう <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お互いの響きを聴きあって、バランスのよい合奏を工夫し、演奏しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の導入をスムーズに行い、楽しく音楽を行う雰囲気をつくる。 ・ 声の響き・和声の安定した響きを意識して歌うことで、バランスの取れた、気持ちのよい合奏や合唱になることを意識させる。 ・ ビデオ録画した演奏を元に、気が付くことを発表させる。特に、全体のバランスや、これまでイメージしてきた楽曲の雰囲気がまともって表現されているかに気をつけさせたい。
展 開 30 分	<p>3 バランスのよい合奏にするための工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各パートの旋律の特徴をとらえた楽器の種類組み合わせによる工夫 ・ 各パートの音量バランスの工夫 ・ 強弱を意識した演奏 ・ 速度の工夫 <p>4 工夫点に気がつけて部分ごとに演奏する。</p> <p>(1) 演奏順序ア・イ部分の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律パート①と歌唱パート②の旋律の流れと互いの響きを意識して音量バランスを考えた演奏 ・ スタッカートを生かす意識 ・ 和音パート③のリズムと強弱、全体を支える低音パート④の和音の変化を意識した演奏 ・ ①・②・③・④全体での速度と強弱 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱「ふるさと」での互いの響きを意識したバランスのよい演奏を思い出しながら、工夫点について考えさせる。 ・ 旋律パート①と②の楽器の組み合わせを変えることで表現に深まりが出てくることを感じ取らせ、効果的な演奏にしていく。 ・ 歌唱パート②を階名唱・ハンドサインを活用して歌うことで、旋律の流れを意識させたい。 ・ 速度記号・強弱記号など楽譜をしっかりと見ること、曲のもつ雰囲気が表現されているのでそれらが手がかりに、どのような演奏の工夫をすればよいのか考えさせる。

	<p>(2) 演奏順序ウ・エ・オ部分の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律パート①・リコーダーの高音演奏への気配り ・ 休符による緊張感 ・ 和音パート③のリズムの変化 ・ 和音を意識した後半部分のまとめ <p>5 工夫点を確認し、全体を通して演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高音域でのリコーダーの音色に気をつけさせることで、全体に響きが増すことに気づかせる。 ・ 休符を大切にすることで曲全体に緊張感が増し、後半部分の盛り上がりを表現できるので、全パートでの統一を図る。 ・ 各パートの重なりが和音を構成し、旋律を作っていることから、特に変化があるところを取り上げて、和声の響きの変化を感じ取らせる。 <p>☆バランスの良い合奏にするために、それぞれのパートが重なり合う響きを聴き合いながら、音色や奏法を工夫することができたか。</p> <p>★工夫点「音量のバランス」「音色の響き」「強弱」「速度」について確認しあい、曲全体の中での流れをイメージさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの工夫点を再確認し、全体を通して演奏する。(ビデオ録画)
<p>終 末 8 分</p>	<p>6 録音を聴き、表現の工夫が生かされた部分について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 録音を聴く ・ 良くなった点を確認する <p>7 次時の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合奏で生かしたことを、合唱で高めていくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善された点を相互評価し合い、まとめる。

きれいなひびきで
音色を工夫して合奏しよう

風を切って

作詞 ○ 土肥 武 / 作曲 ○ 橋本 祥路

♩ = 120 ~ 132

① *mf* (V)

② *mf* (V)

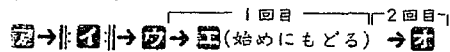
③ *mf* (V)

低 音 器 *mf*

か ぜ を き っ て す
ぜ は ほ え あ

す む そ り こ ど く な た び し ろ
れ く る う か こ く な た び ふ ぶ

〔演奏順序〕



□ パートの役割をつかんで、

① に好きな楽器を選びましょう。

◀ 例 ▶



♪ うち表紙裏を見ましょう。

mf (V)

mf (V)

f

の 一 せ か い か た す ら か な た へ あ
き の せ か い ひ た

え き な が ら こ お る て あ し に い の

ち た く し て (始めから) (い) が に ぎ え た

Coda

Coda

mf D.C. (始めから)